

(2) 閉鎖の実効性をめぐる日英交渉

1926

昭和15年7月18日

有田外務大臣より  
在ラングーン久我領事宛(電報)

ビルマルート封鎖を実証する資料の提出をビ

ルマ政庁に要求方訓令

本省 7月18日後4時発

第三九號(至急)

往電合第一五五九號ニ關シ

緬甸「ルート」輸送禁絶ニ關シ交渉妥結ノ次第ハ大體冒頭  
往電ノ通りナル處右禁輸ヲ我方ノ納得シ得ル様實證スル方  
法ニ付テハ「クレীগー」大使ハ緬甸政府ハ右禁輸ヲ效果  
アラシムル爲同政府ノ取リツツアル措置ニ付在蘭貢日本總  
領事ニ通報スヘキ旨約束シタリ就テハ貴官ハ至急緬甸當局  
ニ右ノ次第ヲ告ケ不取敢本件禁輸ヲ實證スヘキ詳細、適確  
ナル資料(禁輸ニ關スル法令、各地稅關ノ輸出入統計、關  
係貨物ノ現在高、國內消費高、奥地向移動狀況等)ヲ提出  
スル様御交渉相成度シ  
尙奥地ニ於ケル禁輸狀況視察ニ付特ニ明確ナル取極メハ無

キモ「ク」大使ハ貴館員ノ國內旅行ハ自由ナル旨言明ノ次  
第モアリ不取敢貴館員ヲ「ラシオ」方面ニ旅行セシメラレ  
タシ

尙貴館員ノ増員ニ付テモ考慮中ナリ

~~~~~

1927

昭和15年7月18日

有田外務大臣より  
在ラングーン久我領事宛(電報)

禁輸の対象外とするガソリンの数量をビルマ

政庁と打合せ方訓令

本省 7月18日後7時発

第四一號

往電合第一五五九號ニ關シ

緬甸産「ガソリン」ニ付テ當初英國側ハ右ヲ禁輸ヨリ除外  
方主張シタルモ結局之カ禁輸ニ同意シタルカ  
「禁輸品以外ノ物資ヲ輸送シテ支那トノ間ヲ往復スル「ト  
ラック」及  
ニ、蘭貢、重慶間往復郵便飛行機  
ニ夫レ夫レ使用スル「ガソリン」ハ例外トシテ之カ輸送ヲ  
認ムルコトナレリ

就テハ右ニ付現地ニ於テ適當取極メ置クコトト致度キニ付  
之カ數量輸送取締方法等至急先方ト打合ノ上同電アリタシ

1928

昭和15年7月19日

在ラングーン久我領事より  
有田外務大臣宛(電報)

実効あるビルマルート封鎖を実現するため重  
慶政権のビルマ現地機関たる西南運輸公司の  
閉鎖を英国側へ嚴重交渉方意見具申

ラングーン 7月19日後発

本省 7月20日前着

第一六二號

貴電第三九號ニ關シ(緬甸禁輸問題ニ關スル件)

本件禁輸ヲ實現セシメ且右ニ關スル英國側ノ誠意ヲ實證セ  
シムヘキ最有效手段ノ一ハ支那政府ニ對シ本件輸送ヲ管掌  
シツツアル在當地及「ラシオ」ノ西南運輸公司ヲ緬甸政府  
ヲシテ速ニ閉鎖セシムルニ在リト存セラルルニ付テハ英大  
使ニ對シ嚴重交渉方切望ス尙老獪陰險ナル英支兩國側ヲ威  
嚇シ密輸入又ハ惡意アル協定ノ妥結ヲ防止スル爲國境近ク  
ノ支那側軍需品倉庫ヲ空爆スルコト必要ト存セラル爲念申

添フ

1929

昭和15年7月20日

在香港岡崎総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

香港經由軍需物資禁輸を実証する税関書類の  
提示と滞貨量の通報を香港政庁民政長官承諾  
について

香港 7月20日後発

本省 7月20日夜着

第三八〇號

貴電第一八〇號末段ニ關シ(香港經由軍需品禁輸ニ關スル  
件)

二十日民政長官ト交渉シタル處先方ハ倫敦ヨリノ物資ヲ記  
入スヘキ旨ノ訓令ハアルモ夫レ以上ノ措置ニ付指示無シト  
ノコトナリシモ種々話合ノ結果差當リ本件物資ニ關スル税  
關書類ノ揭示及「ストツク」ヲ調査シ通報スルコトニ付テ  
ハ主義上承諾シ實際方法ニ關シ月曜日本官ト輸出入局長  
「ハミルトン」ト協議スルコトナレリ尙實地檢證ハ仲々  
困難ナルカ如ク又當館ノ手不足ナル現情ニテハ實際上充分

ナル效果ヲ期待シ難ク此方ハ差當リ諜報者等ヲ利用シ行ク  
コト便利ナルヤニ存ス不取敢

~~~~~

1930

昭和15年7月20日

在ラングーン久我領事より  
有田外務大臣宛(電報)

援蔣物資禁絶に関するビルマ政庁の措置振り報告

別電

昭和十五年七月二十日發在ラングーン久我領  
事より有田外務大臣宛第一六七号

ビルマ政庁發表の中國向け輸出禁止物品

ラングーン 7月20日後發

本省 7月21日前着

第一六六號

貴電第三九號及第四一號御訓令ノ次第八十八日公文トシ緬  
甸政府ヘ申入濟ナル處十九日同政府ハ同日附官報號外ヲ以  
テ別電第一六七號所掲物品ノ支那向輸出ヲ禁止スル旨發表  
シ別ニ本官宛公信ヲ以テ之ヲ通知越スト同時ニ既二十八日  
行政命令トシテ全國稅關官憲ニ對シ同趣旨ヲ傳ヘ之カ即時  
實施方命令濟ナルコト竝ニ今後國境ヲ越ヘテ支那ヘ輸送セ  
ラレタル物品ニ關シテハ一箇月毎ニ其ノ情報ヲ本官ニ通報

越スヘキコト及禁輸ノ有效的勵行ヲ期スル爲稅關官憲ヲ增  
員スヘキコトヲ通知越セリ別電ノ品目ハ約定通リノ品目ナ  
リヤ飛行機及部分品ニ關シ何等記載ナキカ右ニテ可ナリヤ  
又本官宛一箇月毎ニ情報送付ノコトハ本省ニ於テ満足ナリ  
ヤ何分ノ儀御回電アリタシ

(別電)

ラングーン 7月20日後發

本省 7月20日夜着

第一六七號

(A) Motor Spirit (B) Iron or steel Railway track Material  
(C) Rolling stock and Component parts (D) Motor Vans  
Motor lorries trailers chassis and parts thereof (E) Arms  
Ammunition and parts thereof and Military explosives

~~~~~

1931

昭和15年7月20日

在ラングーン久我領事より  
有田外務大臣宛(電報)

西南運輸会社が業務繼續を表明していること

る同公司の急速閉鎖実現方意見具申

ラングーン 7月20日後発  
本省 7月21日前着

第一六九號

往電第一六二號ニ關シ

二十日蘭貢「ガゼット」紙所報ニ依レハ當地西南公司支配人ハ同紙記者ニ對シ武器類カ禁輸トナレルモ西南公司トシテハ別ニ取扱フ貨物アルニ付公司ハ閉鎖セス業務ヲ繼續シ行クヘシト豪語シタル趣ナルカ右ノ別ニ取扱フヘキ貨物云々ニ關シテハ同人ハ沈黙ヲ守レル由ナルカ右ハ飛行機及部分品竝ニ米國ヨリ來ル多量ノ機械類ヲ指スモノト思ハルルニ付テハ既電ノ飛行機及部分品ノ禁輸及西南公司(竝ニ支那品ノ輸出ヲ取扱フフクコウ公司)ノ閉鎖急速實現方配慮切望ス追テ從來印度緬甸稅關ニ於テハ arms ammunition ト aeroplanes トハ別個ノモノトシテ取扱ヒ來レルニ付該慣行ニ從ヘハ單ニ「アームス、アンド、アームニシヨシ」ト記サレアル場合ハ「エロプレシ」ハ含マストスルカ常識ナリ尙十九日「ラシオ」發「エーピー」ハ十八日夜十二時以降當該品ノ禁輸勵行セラレ居ル旨ヲ傳ヘ居リ

1932

昭和15年7月23日  
在香港岡崎總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

香港經由軍需物資禁輸を実証する具体的方法

に關し香港政庁輸出入局長と協議について

香港 7月23日後発  
本省 7月24日前着

第三八七號

往電第三八〇號ニ關シ

二十二日「ハミルトン」ニ面會シ具體的問題ニ付談合セルカ

一、密輸取締ニ關シテハ差當リ別電第三八八號ノ要領ニテ實行スルコトナレリ(但シ人員及設備ノ増強ヲ必要トスル爲全部ノ實行ニハ尙時日ヲ要スヘシ)

二、稅關書類ノ檢閲ニ付本官ヨリ輸入貨物ノ「マニフェスト」全部ヲ當館ニ提示アリタキ旨申入レタル處「ハ」ハ大イニ驚キ「マニフェスト」ハ商賣上ノ機密ニ屬シ之ヲ他ニ洩ラサハ政廳トシテモ内外商人ニ對シ言譯無シ右ハ不可能ナレハ禁止貨物ニ關スル稅關報告ノ「アドバンスコピー」ヲ送附スルコトト致度シ(緬甸ニテモ右様スル

積リナルカ如シ)ト答ヘタルニ付當館カ「マニフェスト」ヲ閱覽スルハ禁止貨物ノ輸入狀況ヲ正確ニ知ラントスルニ過キサレハ他ノ目的ニ之ヲ利用セサルコトヲ確約スルモ可ナリ日本ヲ信用セハ之位ノコトハ差支無キ筈ナル旨ヲ説キタルモ「ハ」ハ右ハ商業常識ニ反スルノミナラス日本側トノ約束モ特定貨物ノ取締ニ在ルヲ以テ輸入貨物ヲ知ラントスル必要無ク日本側コソ英國ヲ信用アリタシトテ承服セス但シ同日ノ會談ニテハ前記「アドバンスコピー」ノ代リニ「マニフェスト」接到後禁止貨物丈ヲ拔出シ政廳ニテ正確ナルコトヲ保證セル「サーチファイドエキストラクト」位ハ寄越スコトヲ承諾スル見込ナリ

三、「ストック」調査ニ關シテハ「ガソリン」ニ對シ軍部ニ強キ反對アリトノコトナリシカ本官ハ軍用ノ「ストック」ハ軍事上ノ機密ナルヘキモ一般商業用ノ分ハ問題ナカルヘシト述ヘ置ケリ尙鐵道材料ニ付テモ先方ハ「レー」枕木等ハ明確ナルモ其ノ他何レニ屬スルヤ不明ノモノアリト述ヘタルニ付之等ハ更ニ協議スルコトトシ大體先方ハ禁止品目「ストック」ノ調査ニ當ルコトヲ承諾セラルカ(尤モ相當時日ヲ要スヘシ)當方カ調査ニ立合フコト

ニハ應セス右ハ政府間ニ決メラルヘキ事項ニテ政廳限リニテ措置シ難シト爲スカ如シ尙本件ハ未タ發表セラレサル様致度ク必要ノ場合ハ發表ニ付英大使館側ト御協議相成度シ爲念

往電第三八〇號及別電第三八八號ト共ニ英ニ轉電セリ支、上海、廣東ニ一括轉電アリタシ



1933

昭和15年7月25日 松岡外務大臣より  
在本邦クレギー英國大使宛

# 香港經由ラングーン向け援蔣軍需物資の輸送

## 禁絶方要請について

拜啓陳者香港經由支那向軍需品輸送ノ件ニ關シ本月十三日附往翰ヲ以テ照會申進置候處同十六日附貴翰ヲ以テ香港ニ於テハ國境方面ニ帝國軍隊カ存在スルト否トニ拘ハラス現在既ニ特定軍用資材ノ支那向輸出ハ禁止セラレ居リ更ニ緬甸ニ關シテ同意セラレタル所ト同様ノ範圍ノ資材ハ凡テ香港ニ於テモ之カ支那向輸出ヲ禁止スヘク又本件輸出禁止ハ陸路ニ依ルト海路ニ依ルトヲ問ハス適用セラレ居リ將來ニ於テモ適用セラルヘキ旨御通報相成了承致候

然ルニ右輸出禁止措置ハ香港ヨリ支那及支那諸港ヘノ輸出ニ適用セラルルモ英國港其ノ他支那ニ非サル仕向地ニ對スル輸出ハ之ヲ制限シ得サル旨御申越相成候處帝國政府トシテハ香港ヨリ蔣政策ノ抗戦力ヲ増大スルノ可能性アル物資カ蘭貢方面ニ輸送セラルルコトニ對シテハ深甚ナル關心ヲ有スルモノニ有之、即チ緬甸ニ於ケル援蔣物資輸送禁絶措置ヲ實地ニ就キ確認スル爲所要ノ人員ヲ派遣セントスル我方要望ハ貴國政府ニ於テ未タ之ヲ容諾セラレサルノミナラス三ヶ月後緬甸ニ於ケル輸送禁止措置カ解除セラルヤモ知レサルコトヲ僥倖シ現在香港ニ滯貨中ナル援蔣物資力不取敢同地ヨリ蘭貢ニ輸送セラルルコトアルヘキハ想像ニ難カラサル所ニシテ此ノ如キハ香港ニ關シ既ニ英國政府力欣然實行セラレ居ル輸送禁止措置ニ對シ看過スヘカサル<sup>(一)</sup>連脱行爲ヲ構成スルモノト言ハサルヘカラス依テ本大臣ハ英國政府ニ於テ武器、彈藥、「ガソリン」、貨物自動車及鐵道材料ニシテ將來絕對ニ援蔣ノ用途ニ充テラルルコト無キ旨ノ明白ナル保障無キモノハ之カ香港ヨリ緬甸ニ輸送セラルルコトヲモ禁止セラレンコトヲ重ネテ要望致度何分ノ儀至急御回示相煩度候

右申進旁得貴意候

昭和十五年七月二十五日

敬具

外務大臣 松岡 洋右

在本邦英國大使

「ゼ、ライト、オノラブル、サー、ロバート、クレイギー」閣下

~~~~~

1934

昭和15年7月26日 松岡外務大臣より  
在ラングーン久我領事宛(電報)

税関輸出入明細報告書の提出など実効ある禁輸  
実現のための措置をビルマ政庁へ要求方訓令

本省 7月26日後10時30分発

第四九號

貴電第一六〇號、第一六六號及第一六七號ニ關シ

一、本件輸送禁絶ノ效果ハ當時適確ナル資料ニ基キ之ヲ検討スルノ要アルニ付支那向輸送セラルル物資ニ付毎月報告ヲ受クル程度ニテハ到底充分ナリト認メ難ク就テハ右ノ外蘭貢其他各地ニ於ケル税關ノ輸出入明細報告書ノ如キヲ隨時當方ノ要求ニ應シ提出セシムルコトニ先方ト打合

ハセラレ度且禁絶品目ニ付テハ其ノ在庫高(特ニ國境方面ニ於ケルモノヲ含ム)國內需要量及其輸送狀況等ヲ至急明確ニシ置クヲ要ス

二、本件輸送禁絶ノ趣旨ニ鑑ミ禁絶品ハ之ヲ廣義ニ解釋スヘク且部分品、粗製品ヲモ含ムコトトシ不取敢左記ニ付先方ノ了解ヲ取付ケラレタシ

(イ)鐵道材料ハ「レール」枕木等ノ建設材料ヲ含ム(英國側了解濟)

(ロ)商業用飛行機ハ軍用機ニ準ス

(ハ)燈油以外ノ石油ハ「ガソリン」ニ準ス

(ニ)武器製造機械ハ武器ニ準ス

三、禁絶品目外ノ物資輸送ニ従事スル「トラツク」ハ國境ノ通過ヲ認メス國境ニテ支那側「トラツク」ニ積ミ換ヘノコトニ交渉アリ度尤モ此ノ場合支那側「トラツク」用トシテ「ガソリン」ノ補給ヲ認ムルコト往電第四一號ノ通り

四、乗用自動車ハ禁絶外ナルモ同部分品(「シヤ―シー」ヲ含ム)ハ「トラツク」ニ轉用シ得ル限り禁絶品タルコト勿論ナリ

五、禁止品目ニ該當スルモノハ緬甸產タルト再輸出タルトヲ不問禁絶セラルヘシ

六、貴官ヨリ緬甸政府宛ノ書簡中「禁輸狀況視察ノ爲領事館員ノ國內各地ヘノ旅行ハ自由ナル旨ノ了解アリ云々」ト記載アリトテ在京英國大使館ヨリ斯ル事實無キ旨注意越シタル處禁輸狀況視察ノ爲旅行ニ付取纏メヲ爲シ得サリシコト往電第三九號末段ノ通りナリ但館員ノ普通旅行トシテ便宜供與ヲ求ムルハ差支無クナルヘク頻繁ニ國境方面ニ旅行シ實情ヲ視察アリ度

七、東京ニ於ケル日英間取極ノ内容ハ往電合第一五五九號及往電第四一號程度ノモノナルニ付今後右取極ヲ成ルヘク我方ニ有利ニ實施セシムル様隨時交渉ノ要アル次第ナルカ今後貴地ニ於ケル本件交渉ハ成ルヘク口頭ヲ以テ懇談的ニ行ハレ問題ノ圓滑ナル處理ヲ期セラレタシ

1935

昭和15年7月27日 在ラングーン久我領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

禁輸措置の勵行状況につきビルマ政庁担当官  
へ照会について

第一八四號

ラングーン 7月27日後発  
本 省 7月28日前着

往電第一六六號ニ關シ(緬甸禁輸問題ニ關スル件)

本朝當政府本件擔任官「コントロウラーオブサツプライ」ヲ往訪シ本官發緬甸政府宛公文ニ對スル正式回答ハ何時受領セラルヘキヤ本件ニ關シ何等「ラシオ」及國境方面ヨリ耳新ラシキ情報ナキヤ禁輸滞リナク勵行セラレ居レリヤ支那正規兵平服ニテ潛入ノ噂アルカ如何(往電第一六三號)等ヲ質シタルニ緬甸側ノ正式回答ニ關シテハ目下總督ニ於テ審議中ナレハ總督ヨリ回付アリ次第御移牒スヘシ十九日附公信ニテ通知濟ノ通り十八日稅關官憲ニ對シ禁輸勵行ニ關シ訓令濟ニテ國境「ラシオ」方面ヨリ其ノ後別段ノ情報ナケレハ禁輸ハ滞リナク勵行セラレ居レリト確信ス支那兵平服潛入說ニ付テハ緬字新聞ニ其ノ記事現ハレタル由自分モ聞込ミタルモ武器ナキ彼等ニ何事力爲シ得ヘキヤト一笑ニ附シタルニ付本官ヨリ「ラシオ」倉庫ニ充滿シタル武器ヲ盜ミ出スカ如キハ奸猾ナル彼等ニ取リテハ何テモナキコトナルヘケレハ調査ヲ要スヘシト應酬シタルニ彼モ

調査方同意セリ次テ本官ヨリ本件禁輸ノ勵行如何ハ帝國政府モ重視スル所ニシテ本官ニ於テモ嚴重注視ヲ怠ラサル考ヘナリト述ヘタルニ彼ハ日英協定ノ條項ニ準據シ本件嚴重勵行方本國政府ヨリ來訓ノ次第モアレハ當政府ニテモ勿論勵行ニ努メ居レルモ實施ノ細目ニ付テハ萬事尙折合協議等ヲ爲ス必要モアレハ右ヨリ左ヘト捌キ難キコトモアルヘケレハ其ノ邊諒トセラレタシ云々ト答ヘタルニ付此ノ上トモ勵行方切望スト述ヘ引取りタリ不取敢御參考迄

1936

昭和15年8月1日 在ラングーン久我領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

税関資料の提出拒否やわが方領事館員の国境  
方面視察拒絶など非協力的な態度を示したビ  
ルマ政庁の対日回答振りについて

別 電 昭和十五年八月一日発在ラングーン久我領事

より松岡外務大臣宛第一八七号

非禁絶品輸送トラックに許容されるガソリン  
量に関する回答部分



ラングーン 8月1日後発  
本 省 8月2日前着

第一八六號

往電第一八四號ニ關シ

七月三十一日緬甸政府ヨリ同日附公文ヲ以テ回答越セル處  
要領左ノ通り

一、禁絶品ニ關スル法令ハ七月十八日發布セリ(往電第一六  
六號所報ノモノ)

二、禁絶品ノ各地税關輸出入統計關係貨物ノ現在高國內消費  
高其ノ他適確ナル資料提出方ニ付テハ日英協定ニ何等ノ  
規定ナキヲ以テ緬甸政府ハ右提出ノ義務ヲ有セス

三、禁絶品密輸入ノ防止ニハ緬甸政府トシテ全力ヲ盡ス

四、館員ノ國境方面視察ニ付テハ日本領事ノ權能ハ蘭貢市内  
ノミニ限ルモノナルヲ以テ蘭貢市以外ニ於ケル館員ノ權  
能行使ニ付便宜ヲ供與スルヲ得ス(註、當館ノ管轄區域  
ヲ蘭貢市内ニ限ルコトハ緬甸政府側力終始主張シ來レル  
所ナリ)

五、往電第一六五號所報ノ香港ヨリ入港セル米國船「スサン  
ナ」號積荷ハ日英協定成立以前ニ之カ貯藏ノ爲特別ニ

「ラシオ」ニ建設シタル危險物倉庫ニ收容スル筈ナリ

六、香港ヨリ入港スヘキ「マリオンモラー」號(香港ヨリ大  
臣宛轉電濟ノモノ)積荷中禁絶品タル「ペトロル」ニハ  
禁輸ヲ適用スルモ「ディーゼル、オイル」「ルブリリケ  
ーテング、オイル」ハ協定外ナルヲ以テ輸送ヲ許可スル  
筈ナリ

七、本件來信ノ末項ハ本官ヘノ「インフオメイション」トシ  
テ通知越セルモノナルカ「ガソリン」ノ積替ニ關シテハ  
相當考慮ニ値スヘシト認メラルルニ付英文其ノ儘別電第  
一八七號ス

香港へ暗送セリ

(別電)

ラングーン 8月1日後発  
本 省 8月2日前着

第一八七號

Immediately following news of conclusion of the  
agreement orders were issued for through traffic of lorries  
to China to be stopped because there was no means by

which return to Burma of lorries permitted to enter China could at that time be ensured. Transshipment at the frontier of unprohibited goods together with the balance of motor spirit required to enable full lorryloads to reach their destination in China and to return was however to be permitted. These arrangements are to continue in force until satisfactory scheme providing so far as possible full guarantees against evasion of the agreement has been put into effect. It is hoped such scheme will be evolved very near future.

1937

昭和15年8月9日  
在ラングーン久我領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

ビルマ国境方面へのわが方領事館員の旅行に關  
しクレイギー大使へ便宜供与取付け方意見呈申

ラングーン 8月9日後発  
本省 8月10日前着

第一九八號(至急)

一、援蔣物資ノ輸送狀況ヲ知ル爲ニハ單ニ諜報ニ依ルコトナ

ク隨時館員等ヲ派遣シ國境ノ要地ヲ視察セシムルノ要アルコト貴電第五一號御來示ノ通りナル處往電第一八六號ノ四ノ通り緬甸政府ヨリ援蔣物資輸送禁絶狀況監視ノ爲ノ館員ノ旅行ニハ便宜ヲ供與スルコト無意味ナリト拒絕シ來レル經緯モアリ今更メテ普通ノ旅行ノ建前トスルモ先方ニハ拘ハリアルヘク此ノ點ニ付テハ近ク政府側ト談合ヲ試ムル筈ナルカ當政府ノ對日態度ニハ香港政廳等ニ比シ著シキ懸隔アル關係モ手傳ヒ相當ノ困難ヲ豫想セラル

二、然ルニ七月十二日有田前大臣ト「クレイギー」トノ會談ニ於テ領事並館員カ緬甸ノ各地ヲ旅行スルコトハ自由ナルコトヲ「クレイギー」カ諒承セル經緯モアリ此ノ際「クレイギー」ニ對シ右會談ニ「リファア」シ領事又ハ館員(奥村書記官ヲ含ム)ノ旅行ニ所要ノ便宜ヲ供與スヘキコトヲ應諾セシメ其ノ旨緬甸政府ニ通達セシムルコト最モ有效且早手廻ナルヘシト存スルニ付テハ右様御取計ノ上何分ノ儀御回電アリタシ(緬甸政府側ニ於テハ七月十二日會談ノ經緯ニ付充分通報ヲ受ケ居ラサルモノノ如ク又此ノ種事項ハ日英兩政府ノ間ニ話合ハルヘキ彼等ノ

所謂「インペリアルクエツション」ニシテ日本領事ヲ相手トスヘキ筋合ニ非ストノ建前ヲ持スルカ如シ)

三、<sup>(2)</sup>

尤モ右ニ付テハ實際問題トシテ左ノ諸點充分御諒解相煩度シ必要ノ點ハ「クレীগー」ニ吞込マシメラレタシ

(一)所謂援蔣「ルート」ヲ有效ニ視察スル爲ニハ「マンダレー」ヨリ「ラシオ」ニ出テ夫ヨリ陸路北行シ「Namkan」ニ出テ西北ニ轉シテ「バーモ」ニ到リ「イラワジ」河ヲ下リテ「Ktha」ニ出テ鐵路北行シ州境ノ「Myikyna」ニ到ルカ又ハ「バーモ」ヨリ陸路同地ニ到リ蘭貢ニ歸還スルノ「ルート」ヲ先ツ一巡スルノ要アリ(二)右ノ中「マンダレー」「ラシオ」ノ中間ニ在ル「Gokkai」ハ大鐵橋ヲ保護スル爲一般ノ旅行ヲ禁止シ居レリ(大橋忠一氏ノ逮捕セラレタル地點ナリ)之カ通過ノ爲ニハ特別ノ許可ヲ要シ(三)「ラシオ」「ナム」「バーモ」間約二百哩ハ自動車又ハ「トラツク」ニ依ルノ外峻險ナル道路ハ目下雨季ノ爲通過ニ多大ノ困難アリ但シ當館ノ有スル情報ニ依レハ通過不可能ニハ非ス(四)以上ノ旅行ニハ蘭貢以外ニ殆ト宿屋ヲ有セサル緬甸ノ特殊事情ニ鑑ミ一切ノ糧食寢具ヲ携行シ土人ノ從者二三名ヲ帶同スルヲ要ス所要

日數ハ二週間位ナルヘシ

1938

昭和15年8月13日

在ラングーン久我領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

実効ある禁輸措置をめぐる奥村書記官とビルマ国防部長官との意見交換について

ラングーン 8月13日後発  
本省 8月14日前着

第二一一號(至急)

<sup>(1)</sup>十三日奥村書記官緬甸政廳國防部長官「ワイズ」ト會見シ緬甸「ルート」閉鎖問題ニ付意見ヲ交換シタルカ其ノ要領左ノ通り

「先ツ緬甸政廳カ援蔣「ルート」遮斷ノ決意ヲ爲シタルヲ多トスル旨挨拶シ本日會談ノ目的ハ先般ノ日英了解ニ基キ本問題カ現地ニ於テ如何ニ取扱ヒツツアリヤニ付直接ノ智識ヲ得ル爲意見ヲ交フルニ在リ其ノ結果政廳ニ於テ更ニ何等カノ處置ヲ執ラルルコトナルヘク又問題ヲ日英兩政府間ノ交渉ニ移ス要モアルヘシト述ヘタル處先方ハ仲々警戒の態度強ク情報ノ供給ハ日英了解ニ基ク限り

御話ニ乘リ得ヘキモ新ナル措置ヲ執ルコトハ當地ニ於テ議論シ得ス此ノ區別ヲ判明リ致度シト述ヘタルモ之ニ頓着セス話ヲ進メタリ

二、第一ニ情報ヲ受ケタキ事項トシテ(イ)緬甸ニ到來スル禁輸品(ロ)緬甸内ノ禁輸品ノ「ストック」(ハ)支那ニ行クコトヲ認メラルル「トラック」及「ガソリン」ノ數量(ニ)支那ニ行ク非禁輸品ノ諸問題ヲ舉ケ(イ)及(ロ)ニ付テハ香港ノ例ヲ引用シテ當地ニ於テモ同様ノ通報ヲ受クルコトト致度シ(ハ)ニ付テハ「トラック」ニ對スル支那領ヘノ往復禁止ヲ解除(往電第一九一號)セラレタルコトハ我方ニ惡印象ヲ與ヘツツアリ元通り之ヲ禁止アリタク兎ニ角現在日々支那領ヘ往復シ居ル「トラック」ノ數及積載「ガソリン」ノ量ヲ通報セラレタク又蘭貢重慶間ノ商業用飛行機ニ與フル「ガソリン」ノ量ニ付テモ通報ヲ得度ク

(二)ニ付テハ一ヶ月毎ニ通報ヲ與ヘラルル様ナリ居ルモ(往電第一六六號)モット頻繁ニ例ヘハ一週間ニ一度位トセラレタシト述ヘタル處御話ノ點ニ付テハ充分研究ノ上何分ノ措置ヲ執ルコトトシタシト答ヘタリ

三、次テ arms and ammunition ノ意味ノ範圍ニ付我方ハ

arms トハ近代の軍隊ノ裝備ニ並通<sup>(普カ)</sup>ニ用ヒラルル一切ノ攻撃用及防禦用機具(「ウエポン」)ト解釋シ「タンク」大砲迫撃砲機關銃手榴彈ハ勿論瓦斯「マスク」鐵兜等ヲモ含ムモノト考ヘ又武器製造機械モ之ニ入レタシト考ヘ居ルモ緬甸政廳ノ解釋力之ニ異ナルトキハ不都合ヲ生スルニ付如何ト尋ネタル處瓦斯「マスク」鐵兜武器製造機械カ「アームス」ト言ヒ得ルヤ疑ハシト云ヒタルニ付兎ニ角此ノ字句力狹ク解釋セラルルコトハ好マス充分研究アリタシト述ヘ先方之ヲ了承セリ

四、<sup>(3)</sup>

次ニ左ノ諸點ハ禁絶措置ヲ更ニ效果的ナラシムル爲切實ニ御考慮アリタク之カ實行ハ我國ニ多大ノ好感ヲ與フルコトトナルヘシト前提シ

(イ)緬甸内ニ於ケル禁絶品ノ移動禁止

(ロ)西南運輸公司ノ閉鎖

ヲ提出シ(イ)ニ付テハ香港ノ例等ヲ引合ニ出シ(ロ)ニ付テハ種々ノ理由ヲ竝ヘ力説シタルカ先方ハ是等ノ問題ハ當地ニ於テ話合ヒ得ヘキ事項ニアラス外交ノ筋ヲ通シナサレタシト突張り一旦約束シタル禁絶措置ハ誠心誠意實行シ居ルニ付緬甸内ニ於ケル禁絶品ノ移動ハ御心配ニ及ハス

ト述へ又西南公司ノ問題ニ付テハ全然話ヲナスコトヲ欲セサル態度ヲ示シタリ

五、最後ニ領事及館員ノ奥地旅行ニ付テハ監視トカ視察トカ言フニ非ス單ニ普通一般ノ旅行トシテ所要ノ許可及便宜供與アリタキ旨申入レタル處具體的ニ何處ニ行カルルヤ承知シタル上ニテ處理致度シト述ヘタルニ付追テ打合ヲ遂クルコトセリ

更ニ會談ヲ重ヌル所存ナルモ不取敢

1939

昭和15年8月14日

松岡外務大臣より  
在ラングーン久我領事宛(電報)

非禁絶品輸送トラックに許容されるガソリン  
量およびわが方領事館員のビルマ領内旅行許  
可に關し在本邦英國大使館へ申入れについて

別電 昭和十五年八月十四日發松岡外務大臣より在

ラングーン久我領事宛第六五号

右ガソリン量は目的地往復分とは解さない旨  
のわが方申入れ要旨

本省 8月14日發

第六六號

貴電第一九一號及第一九八號ニ關シ

十三日西歐亞局長ヨリ「サンソム」英商務參事官ニ對シ大要別電第六五號ノ通り申入レ有田「クレイギー」了解ニ依レハ非禁絶品輸送ノ「トラック」ニ對シ例外的ニ認ムル「ガソリン」量ハ其ノ載貨ノ仕向地迄ノ往復分ニ非ス若シ然ラストセハ重慶、昆明等遠隔ノ地ヘノ輸送ニ要スル莫大ナル「ガソリン」量ヲ認ムルコトナルヘク斯ノ如キハ輸送禁絶ノ趣旨ニ反ス尙本件實際ノ運用ニ付緬甸側ニ於テ久我領事ヘノ一方的通告ノミニ依リ實施シタルハ遺憾ナリト述ヘタルニ「サ」ハ本件ニ對スル英國側解釋ハ日本側見解ト些カ異ナルヤニ思考セラルルモ御話ノ次第ハ直チニ本國及緬甸政府ニ電報スヘシト述ヘタリ

次イテ局長ヨリ「クレイギー」大使ハ監視旅行ヲ認メサリシモ在蘭貢領事館員ノ普通ノ國內旅行ハ自由ナリト述ヘタル次第アリ且右旅行ノ結果奧地ニ於ケル事態力平靜ナリトノ印象ヲ我方ニ於テ確認スルヲ得ハ日英双方ノ空氣改善ニ資スルコト大ナルヘキ處緬甸内旅行ニハ種々困難アル由ニ付奥村書記官及領事館員ノ旅行ニ付緬甸政府ヨリ充分ノ便

宜供與方取計ハレ度キ旨述ヘタルニ「サ」ハ右ヲ政府ニ取次クヘキ旨答ヘ尙緬甸政府ハ充分好意的ニ本件輸送禁絶ニ當リ居ルモノト考ヘラレ過日貴官ヨリオ話アリタル飛行機ノ輸送禁絶モ自充<sup>(分々)</sup>ヨリ電報シ置ケルニ其ノ後之ヲ實行シタルハ其ノ一例ナリト述ヘタル趣ナリ

## (別電)

本省 8月14日發

## 第六五號

在蘭貢領事ノ報告ニ依レハ七日緬甸政府ハ非禁絶品ヲ運搬スル貨物自動車ノ爲積荷ノ目的地往復ニ要スル「ガソリン」ノ輸出ヲ認ムル旨通達越シタル趣ナル處本件ニ關スル有田大臣「クレーギー」大使間了解ハ非禁絶品輸送ノ「トラック」ハ其ノ支那ヘノ往復旅行ニ必要ナル「ガソリン」ヲ禁絶外トシ居ルニ止マリ( This prohibition will not apply to petrol required by lorries transporting non-prohibited goods on their journey into China and back again ) 斯クノ如キ廣汎ナル例外ヲ認ムル趣旨ニ非ス

支那ヘノ往復旅行云々ニ關シ帝國政府ハ右ヲ一應國境最寄

リノ「ガソリン」、ステーション」迄トシ其ノ積載貨物ノ目的地ハ問フ所ニ非サルモノト解ス

尙「トラック」ノ國境通過ハ支那側ノ之ヲ抑留シ軍用ニ徵用スル惧レアルニ付緬甸側「トラック」ハ國境ニテ其ノ載貨ヲ支那側「トラック」ニ積ミ換ヘ右支那側「トラック」カ最初ノ「ガソリン」、ステーション」トノ間ヲ往復スルニ要スル「ガソリン」ヲ例外的ニ輸出許可スルコトト致度就テハ先ツ從來緬甸ヨリ支那向輸送セラレタル非禁絶品一ヶ月分概量ヲ承知シタク(右ハ尙雨期、乾期ニ依リ差異アル可シ)其ノ上ニテ右支那側「トラック」用「ガソリン」量ヲ至急協定スルコトト致度右協定成立迄ハ「ガソリン」ノ例外的輸出モ之ヲ禁止セラルコトト致度

~~~~~

1940

昭和15年 8月16日 在ラングーン久我領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

禁輸品のビルマ領内移動禁止など禁輸措置徹底  
底に関する奥村書記官とビルマ総督の意見交換について

## 第二一五號

ラングーン 8月16日後発  
本 省 8月17日前着

十六日奥村書記官「コクレーン」總督ト會談セルカ先ツ奥村書記官ヨリ支那事變ニ關スル日英間ノ諸問題中緬甸「ルート」ノ問題ニ付テハ我國民ノ關心特ニ重大ナルモノアルヲ述ヘタル上緬甸領内ニ於ケル禁絶品ノ移動ニ言及シ日英間了解ノ文字ニ從ヒ禁絶品ノ國境通過ヲ防止スレハ足ルト云フハ英國側ノ議論ナルヘキモ我國民トシテハ國境通過禁止トナリタル今日猶禁絶品カ何故續々國境方面ニ輸送セラレ居ルヤヲ理解スル能ハス茲ニ誤解ト不信賴ノ起ル原因アリ、貴政府カ緬甸通過ヲ禁止シタル以上其ノ通過ノ一部分トモ見ルヘキ緬甸領内ノ移動ヲ禁止シテモ良シカラスヤトスルカ理窟拔キノ我國民ノ感情ナリト説キタル處總督ハ一旦日英間ニ約束成立シタル上ハ自分ハ之ヲ嚴重實行セシメ居リ之ニ對シテハ敢テ貴官ニ確言シ得ル所ナリ然ル以上ハ禁絶品カ緬甸領内ヲ移動スルコトニ付何故關心ヲ持タルル必要アリヤ解シ兼ヌル次第ナリ例ヘハ火藥類ノ如キハ蘭貢ノ波止場ニ置クコトハ危險ニテ之ヲ政府指定ノ場所ニ保管

セシムル爲輸送セシムル要アリ禁輸カ實行セラレアルコトニハ御信賴アリタシトノ趣旨ヲ述ヘタリ

之ニ對シ奥村書記官ヨリ貴總督ノ「アツシユアランス」ハ之ヲ政府ニ傳フヘシ唯本官到着以來モ現ニ各種ノ船ニ依リ多量ノ禁絶品カ蘭貢ニ陸揚ケセラレ總テ西南運輸公司ノ手ニ依リ續々奧地ニ運搬セラレツツアリトテ實例ヲ列舉シタル上之等ノ事實ハ各方面ノ情報ニ依リ我方ニ充分判リ居ル以上之ニ對シ關心ヲ持タサルヲ得サル譯ナリト述ヘタル處總督ハ御話ノ如ク多量ノモノカ到着シ居ルコトハ承知セサリキ若シ事實トスレハ蘭貢ノ波止場ノ混雜ニモナルヘク一考ヲ要スルニ付係官ヨリ報告ヲ徴スヘク必要ニ應シ之等ノ到着品カ如何ニ扱ハレ居ルヤニ付日本領事ニ御知ラセスルコトトスヘシト述ヘタルニ付奥村書記官ヨリ禁絶品ノ緬甸領内輸送ノ問題ハ充分御考慮ヲ煩ス爲持出シタルモノニシテ貴政府ニ於テ何等カノ措置ヲ採ラルレハ我國ニ對シ極メテ良好ナル「ヂエスチユア」トナルヘシト繰返シタルニ總督ハ御申出ハ之ヲ承リ置クヘシ但シ日本領事ニ情報ヲ與フルコトハアルヘク御希望ニ添フ様致度キモ禁絶論ヨリシテ新ナル措置ヲ執ルコトハ日英間了解以上ニ出ツル次第第二モ

アリ御約束ハ出来兼ヌルコト御了解アリタシト述ヘタリ  
更ニ奥村書記官ヨリ華僑ノ排日取締ニ付深甚ナル考慮ヲ求  
メタル上約一時間ニシテ會談ヲ終リタルカ其ノ間總督ノ應  
酬ハ終始慇懃ナリシ趣ナリ

1941

昭和15年8月22日 在ラングーン久我領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

西南運輸公司宛禁絶品搭載船舶のリストをビ  
ルマ国防部長官へ提出し実効ある禁輸措置の

実行方奥村書記官督促について

ラングーン 8月22日後発  
本 省 8月23日前着

第二二五號(至急)

往電第二一一號ニ關シ

其ノ後先方ヨリ一向意思表示ナキニ付二十二日奥村書記官  
「ワイズ」長官ヲ往訪シ先日申入レタル諸點ニ付テハ御考  
慮ヲ煩シ得タルコトト思考スルカ如何ト催促シタル處「ワ  
イズ」ハ實ハ其ノ後病氣ニテ一週間許リ休ミタル爲未タ研  
究ノ餘裕ナカリシ次第ナリト述ヘ其ノ態度相當飄蕩ニテ

不愉快ナリシカ奥村ヨリ研究ヲ督促スルト共ニ往電第二一  
九號第二二二號船舶ノ「リスト」ヲ渡シ

事實ハ總テ日英間了解成立以來西南運輸公司宛ノ禁絶品ヲ  
積ミ到着セル船舶ナリト信スルカ故ニ調査ノ參考トシテ見  
ラレタク先日御願ヒシタル到來ノ禁絶品及其ノ「ストツ  
ク」ノ調査(冒頭往電第二一一號ノ(イ)及(ロ)ハ實際問題トシ  
テハ西南公司ニ就キ取調ヲ行ヘハ直ク判ルコトニテ貴方カ  
一旦決心セラルレハ事ハ簡單ナリト附加シ置ケリ尙貴電第  
七二號二百臺ノ「トラツク」云々ノ情報ニ付テモ「ワイ  
ズ」ノ注意ヲ喚起シタル處斯ルコトハ決シテ行ハレ得ヘキ  
コトニアラス尤モ申出ニ基キ係官ヲシテ充分注意セシヘシ  
ト述ヘタリ

1942

昭和15年8月22日 在ラングーン久我領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

奥村書記官の国境方面旅行を時宜に適せずと  
してビルマ国防部長官難色表明について

ラングーン 8月22日後発  
本 省 8月23日前着



第二二六號

往電第一九八號ニ關シ

奥村書記官及館員ヲシテ「ラシオ」「ナムカンパ」ヲモ含ム方面ヲ一巡セシメル爲國防部ノ了解ヲ得ヘク旅程ヲ二十一日係官ニ渡シ置キタルカ二十二日奥村「ワイズ」長官ト會談ノ際右ニ觸レタル處「ワ」ハ貴官御旅行ノ意圖ニ付決シテ兎ヤ角云フニハアラサルモ時節柄且場所柄ノ關係モアリ貴官ノ如キカ行カルレハ一般ノ人間ハ直ク日本側カ監視ニ來レリ等矢筈數ク云フヘク斯クテハ日英協定カ折角圓滑ニ實施セラレ居ル際不必要ニ問題ヲ起スコトナルヘシ御計畫ハ時宜ニ適セス(インオボチュン)ト認ムルニ付再考アリタシトテ永々ト不賛成ナル旨ヲ述ヘタリ先方ハ我方ノ旅行ヲ極端ニ煙タカリ居ルコト明カニ看取セラレタルカ奥村ヨリ先方ノ言分ヲ然ルヘク反駁シタル上七月谷「クレーギー」會談及八月十三日西局長「サンソン」參事官ノ會談ヲ引用シ後者ニ付テハ東京ヨリ通知ヲ受ケ居ラルルコトト思考ス大體我々ハ立入禁止區域ニ赴カサル限り旅行ハ勝手ナリト考ヘ得タルモ何等ノ誤解ヲ避ケンカ爲豫メ了解ヲ求メタルモノナリ當地ニテ俄ニ同意ナキ様ナラハ東京ニテ

問題蒸返シ事ハ面倒トナルヘシ兎ニ角我々ノ旅行ニ故障ヲ挾マレサランコトヲ希望スト述ヘ置キタリ

~~~~~

1943

昭和15年8月24日

在ラングーン福井(淳)領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

奥村書記官の旅行は承認できない旨ビルマ国防  
部が奥村宛書簡提出について

別電 昭和十五年八月二十四日發在ラングーン福井

領事より松岡外務大臣宛第二二三三號

右書簡

ラングーン 8月24日前發

本省 8月24日前着

第二二三三號(至急)

往電第二二六號ニ關シ

係官(國防部「セクレタリ」Palps)ヨリ二十三日奥村宛書翰ヲ以テ別電第二二三三號ノ通り申越タリ當方ニ於テ更ニ交渉スヘキモ見透シトシテハ押問答ニ終ルヘク在京英國大使トノ間ニ更ニ交渉ヲ煩ハス外ナキヤニ存セララル

(別電)

第二二三號

ラングーン 8月24日前発  
本省 8月24日前着

While in ordinary circumstances we should be delighted to extend to you every facility and assistance in existing situation, which is one of some delicacy, we regret our inability, for time being, to approve your itinerary.

You will no doubt appreciate that just now your presence in frontier areas would inevitably give rise to popular misapprehension regarding the object of your visit which would be difficult to dispel and might have most undesirable repercussions.



1944 昭和15年8月24日

松岡外務大臣より  
在英国重光大使宛(電報)

禁輸措置の確認を認めないビルマ政庁の対日  
態度や駐屯軍撤退後の上海英租界当局の対日  
態度につき英国政府へ注意喚起方訓令

第六九〇號

本省 8月24日発

貴電第一三八六號及第一三九四號等ニ於テ英國側ハ頻リニ  
對日同調性ヲ強調シ居レル處

(一)緬甸問題ニ付テハ「クレイギー」大使及緬甸當局ノ態度  
ハ極メテ冷淡且消極的ニシテ「協定ハ文字通り實行シ居  
ルコトヲ信賴セラレ度ソレ以上日本側カ何等關與スヘキ  
ニ非ス」ト言フニ終始シ香港政廳カ禁輸ノ實行サレ居ル  
コトヲ確證サス爲日本側トノ協力ニ努メ居ルニ比シ著シ  
キ相違アリ例ヘハ禁輸品ノ緬甸國內移動ヲ取締ル協定上  
ノ義務ナシト爲シ居ル處輸入及國內移動ニ付何等ノ監督  
サヘモ爲シ居ラサル爲今尙緬甸領内ニ於テ盛ニ國境方面  
ヘノ禁絶物資ノ移動行ハレ而モ右移動ハ支那政府機關タ  
ル西南運輸公司ノ手ニ依リ行ハレ居ル事實ニ鑑ミ右ハ結  
局支那領内ヘ持込マレ居ルモノト判斷セサルヲ得ス  
(二)更ニ在上海英國駐屯軍撤退後ノ措置ニ關シテモ共同防備  
委員會ノ經緯ニ鑑ミ英國側ニ於テ米國ト通牒シ居ル形跡  
アルノミナラス十六日工部局ニ於テハ緊急會議ヲ開催シ  
本件ニ關スル工部局ノ態度ヲ決スルノ要アリトシテ日本

側參事會員ノ反對ニモ拘ラス多數決ヲ以テ防備委員會ノ多數決案ヲ支持スル旨ノ決議ヲ<sup>(マ)</sup>棧決セリ本件ニ關シテハ固ヨリ米國ニ對シ主タル不滿存スル次第ナルモ他方英國ノ工部局ニ對スル實勢力ヲ考慮セハ英國側ニ於テ駐屯軍撤退ヲ對日「ジェスチア」ノ如ク稱シ居リ乍<sup>マ</sup>其ノ實依然トシテ米國ト對日共同戰線ヲ張り居ルコト顯著ナル事實ニシテ我方トシテハ英國ノ所謂對日同調政策ニ多大ノ疑問ト不滿ヲ懷カサルヲ得サル次第ナリ

就テハ右ノ如キ英國側出先各機關ノ態度ハ英國中央部ノ意圖ニ反シ行ハレ居ルヤモ圖ラレサルニ付適當ノ方法ニ依リ英國側ノ注意ヲ喚起シ置カレ度シ

米、南(大)、上海へ轉電セリ

1945

昭和15年 8月24日  
 在ラングーン福井領事より  
 松岡外務大臣宛(電報)

# 奥村書記官の旅行拒絶に關しビルマ国防部へ 再考方要求について

ラングーン 8月24日夜発  
 本省 8月24日夜着

第二三八號(至急)

二十四日奥村「ペンエリツプス」ヲ往訪シ再考ヲ促シタルカ先方ハ無意味ナル辯疏ヲ繰返スノミ依テ奥村ヨリ問題ヲ東京ニ報告スル前ニハツキリ致シ置キタシト確メタル二本件拒絶ノ決定ハ總督ノ意見ニテ「デフイニツト」ナルモ<sup>?</sup>(尤モ當地ハ地方政府ナレハ本國政府ノ意見ハ異ルコトアリ得ヘシト言葉ヲ濁セリ)又勝手ニ旅行セラルレハ隨時逮捕セラルヘキコト(尤モ左様ナコトハ決シテ行ヒタクハナク唯法律問題トシテ申上クルモノナリト附言ス)ヲ述ヘタルニ付奥村ヨリ我々ノ旅行ヲ何シテモ拒絶セラルルトナラハ右ハ我國ニ於テ最モ好マシカラサル推測ヲ爲ス<sup>(マ)</sup>ヲ有力ナル根據トナルヘク其ノ反響ハ極メテ惡カルヘシ且又小官カ此ノ簡單且無害ナル旅行ヲスルトセサルトニ依リ日本ニ歸リ言フコトモ自ラ異ナルモノト承知アリタク兎ニ角臆意セラレンコト希望ニ堪エサルニ付二十六日迄ニ充分御再考ノ上御返事ヲ戴キタク夫レ迄東京ニ於テ措置スルコトハ差控フヘク又先日差上ケ置キタル旅程ハ一應取消トスヘシ蓋シ便宜ヲ供與セラレサルナラハ豫メ通報スルコトハ無意味ナリ但シ旅行ノ意思ハ抛棄セスト述ヘ置キタリ

1946

昭和15年8月27日

在ラングーン福井領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

奥村書記官の旅行拒絶は再考しがたき旨ビル

マ国防部回答について

付記 昭和十五年九月三日

右旅行実現方大橋外務次官より在本邦ドッツ

英国大使館参事官宛申入れ

ラングーン 8月27日後発

本 省 8月28日前着

第二四四號(至急)

往電第二三八號ニ關シ

二十七日「フエリツプス」ヨリ奥村ニ對シ電話ヲ以テ總督ノ決定ハ再考シ難キ旨通報越セリ之ニ對シ奥村ヨリ我方ハ東京ニ於ケル日英諒解ニ依リ領事及館員ノ旅行ハ自由ナリトノ建前ヲ堅持スルモノナルコトヲ承知置キアリタシ尤モ御通報ノ次第ハ一應政府ニ報告スヘシト應酬シ置キタリ政廳側ハ支那側トノ腐縁モアルヤニテ遷延策ニ出テ居ルモノト認メラルル處囑託一行ノ到着ヲ控ヘタル此ノ際本件ハ更ニ英國大使ト至急御交渉ヲ煩ハスコト無用ノ紛糾ヲ避ク

ル爲ニモ必要ト存セラル

尙支那側ニ於テハ我方ノ國境地方ニ於ケル旅行ハ強力ヲ以テ妨害スル計畫ヲ有スルヤノ諜報モアルニ付右御交渉ニ當リテハ此ノ點ニ付テモ然ルヘク御配慮相煩度シ

(付記)

昭和十五年九月三日次官ヨリ在京英國大使館

「ドッツ」参事官宛申入れ

在蘭貢帝國領事館々員ノ緬甸内旅行ニ付テハ曩ニ有田大臣、「クレーギー」大使間ニ自由ナル旨ノ了解アリタルニ付、先ツ目下蘭貢ニ在ル奥村書記官ヲシテ領事館員ト共ニ國境方面ヲ旅行セシムルニ際シ右ニ對スル便宜供與方緬甸政廳ニ交渉セル處同政廳ハ右旅行カ時宜ニ適セサルノ故ヲ以テ便宜供與方ヲ拒絶シ來タレリ、之ヨリ先西歐亞局長ヨリモ在京英國大使館「サンソム」商務参事官ニ對シ奥村書記官旅行ニ付便宜供與ノ斡旋方申入レタル次第アリタルニ付、八月二十六日西歐亞局長ハ同商務参事官ノ來訪ヲ求メ重ネテ奥村書記官旅行實現方ニ付斡旋アリ度キ旨述ヘタル處同参事官ハ本件ニ付テ既ニ「クレーギー」大使ヨリ本國竝ニ

緬甸政府ニ對シ申報ヲ以テ「レコメンド」シ置キタルカ緬甸政廳ハ奧村書記官ノ旅程ニ多少ノ變更ヲ加ヘ之ヲ許可スル意嚮ノ模様ナル旨答ヘタリ然ルニ緬甸政廳ハ其後本件拒絶ノ決定ハ再考シ難キ旨ヲ通告シ來レリ

奧村書記官(其他領事館々員)カ緬甸國境方面ヲ旅行シタル結果奧地ニ於ケル事態カ平靜ナリトノ印象ヲ我方ニ於テ確認スルヲ得ハ日英双方ノ空氣ノ改善ニ資スルコト大ナルヘシト認メラルル處緬甸政廳ニ於テ右旅行ニ反對ナルハ國境方面ニ於テ對支物資輸送禁絶カ充分履行セラレ居ラサル爲ナラサルヤノ印象ヲ與ヘ輸送禁絶問題ニ大ナル暗影ヲ投スルノミナラス牽イテ國民感情ノ激發ヲ見我方トシテモ何等措置ヲトルノ止ムヲ得サルニ至ルヤノ惧アルニ付是非共本件旅行實現方努力セラレ度

尙在蘭貢領事館ト緬甸政廳間ノ交渉ハ從來兎角圓滑ナル進捗ヲ見ラレス甚タ遺憾ニ不堪次第二付英國政府ヨリ同政廳ニ對シ今後輸送禁絶問題ニ關シテハ一層友好的態度ニテ交渉ニ應スル様訓令アリ度

1947

昭和15年9月4日  
在上海三浦總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

ビルマルート再開に關し協議するためカー英  
國大使が重慶を訪問したとの情報について

上海 9月4日後発  
本省 9月4日後着

第一九一七號

三日重慶發中央社電ニ依レハ「カー」大使ハ同日午前七時半飛行機ニテ重慶ニ到着セル趣ナルカ同地路透電ニ依レハ大使ノ上海出發カ若干早メラレタル原因ハ重慶政府ノ要請ニ基クモノニシテ支那側カ大使ノ歸渝ヲ切望シタル所以ハ十月ヲ以テ滿期トナルヘキ日英間ノ緬甸「ルート」協定ノ存廢如何ヲ知ラント欲スルニ在ル由ナル處右協定ノ存否ニ關シ樂悲兩様ノ見方對立シ居リ樂觀論者ハ次ノ七點ヲ舉ゲ緬甸「ルート」ハ解放サルヘシト觀居レリ即チ

ヘシ  
一、英ノ對日讓歩ハ米國ノ對日强硬策採用ニ依リ放棄セラル

二、緬甸「ルート」ノ閉鎖ハ佛印ニ倣ヘルモノナルモ今や英國ノ新嘉坡防衛及極東ノ利益擁護ノ爲英ハ佛印ヨリモ支

那ニ依存スルコト大ナリ

三、英ハ日本ノ對獨援助ノ力ヲ殺ク爲支那ノ強大ヲ欲ス  
四、英ハ蘇聯トノ接近ヲ欲スル處蘇ハ對支援助政策ヲ採リ居  
レリ

五、獨ノ對英侵入ノ危機薄ラキ英ハ再ヒ極東ヲ注視シ居レリ  
六、香港婦女子引揚、在英日本人ノ逮捕等ハ英ノ對日妥協政  
策放棄ヲ示ス

七、醫藥品等輸出ノ爲「ガソリン」ノ緬甸經由搬入許可ヲ企  
圖サレ居レリ

而シテ一方悲觀論者ハ歐洲ニ於テ生死ヲ賭スル鬭ヲ續ケ居  
ル英國ハ日本ト爭フ力ナク對日媚態ハ今後モ繼續セラルヘ  
シト爲シ居レリ何レニセヨ協定滿了後緬甸「ルート」ノ閉  
鎖繼續セラルルニ於テハ支那側ノ對英反撥ヲ強クスルコト  
明カニシテ重大時期ニ於ケル大使ノ重慶滞在ハ特ニ注目セ  
ラレ居ル趣ナリ

北大、天津、南大、漢口へ轉電シ香港へ暗送セリ



1948

昭和15年9月5日

西欧亜局長  
在本邦クレギー英國大使——會談

奥村書記官の旅行は外国人旅行禁止区域への  
訪問のため便宜供与はできない旨クレギー

大使回答について

緬甸「ルート」問題ニ關スル英國大使ト西局長

會談要旨

(十五、九、五 歐二)

(一)緬甸「ルート」ニ關スル件

九月五日「クレギー」大使西局長ヲ來訪奥村書記官等  
ノ緬甸旅行ニ關スル九月三日大橋次官申入レニ關シ當時  
次官ヨリ「ドッツ」參事官ニ手交セル「オーラル、ステ  
ートメント」ヲ示シ英側ノ態度ヲ説明スベシトテ左ノ通  
語レリ

「自分(大使)ハ有田大臣トノ交渉當時日本領事館員ノ監  
視旅行ニハ反對シ普通ノ旅行ニ付テモ通例以上ノ便宜供  
與ハ出來ザル旨述べタリ

然ルニ今問題トナリ居ル地域ハ一般ニ旅行禁止トナリ居  
ル地方ニシテ之ニ付旅行ノ便宜ヲ日本側ガ要求スルハ無  
理ナルコトト考フ尤モ自分ハ奥村氏等ノ旅行ニ付便宜供  
與方本國ニ「レコメンド」シタルガ結局ハ緬甸官憲ノ判

斷ニテ決スルノ外ナシ而シテ事情前述ノ通りニ付致方ナキ次第ナリ

尙前記「オーラル、ステートメント」ノ末段ニ「本件旅行ヲ許サザレバ日本國民心ノ刺戟スベク政府トシテモ何等措置ヲトルノ已ムナキニ至ルベシ」トアル點ハ脅迫ガマシク聞ユルニ付右文句ノ内ヨリ「措置云々」ノ點ハ削除出來ザルヤ尙末項本件ニ關スル緬甸官憲ノ態度非友好的ナリ云々ノ點モ自分トシテハ緬甸官憲ハ「ルート」問題ヲ友好的ニ處理シ居ルト考ヘ居ルニ付此ノ儘ニテハ緬甸官憲ヲ憤慨セシメ逆效果ヲ生ズルノミニ付此ノ點モ再考ヲ求ム」

右大使ノ所言ハ奥村氏ノ旅行ニ付尙斡旋スル意向トモ認めラレタルヲ以テ局長ヨリ

(イ)前記有田大臣トノ交渉ノ際大臣ハ領事館員ノ普通ノ旅行ニ付テハ禁止區域ハ致シ方ナキモ其ノ他ニ付テハ便宜許與サルト考フル旨述ベラレ貴大使ハ之ニ同意セラレタルモノト記憶ス(大使ハ其ノ通りナリト云ヘリ)

(ロ)奥村等ノ旅行地域ハ全部ガ禁止地域ニハ非ズ禁止區域ハ單ニ其ノ一部ナリ緬甸側モ禁止區域ヲ以テ拒絶ノ理由

トシ居ラズ住民ニ疑惑ヲ與ヘ時宜ニ適セズトノ説明ヲ與ヘ居ルノミニテ此ノ點貴大使ノ説明ハ誤解ニ基クモノト認めラル自分ハ「サンソム」參事官ニ對シテモ監視ニ非ザル普通旅行ノ結果事態平靜ナリトノ印象ヲ得バ日本ニ好影響ヲ與フベシトノ趣旨ニテ斡旋ヲ求メタル次第ナリ(右ニ付大使ハ「禁止區域ノ問題ハ自分ハ然カク解シ居ラズ一應取調ブベシ」ト述ベタルガ前記當方ノ旅行ノ趣旨ニハ贊成ノ模様ナリキ)

(ハ)前記「オーラル、ステートメント」ハ次官ノナシタルモノニテ相談ノ上ナラデハ修正モ出來ザル次第ナルガ本件ノタメ我國國民心ヲ刺戟セバ政府トシテモ何等カ措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルコトハ貴大使モ諒解セラルベク別段脅迫ニハ非ズ而シテ右措置ノ中ニハ自分個人ノ考トシテハ例ヘバ貴我領事官ノ旅行ニ付相互主義ヲ適用スルコトモ問題トナリ得ベシ又緬甸官憲ノ態度前記ノ如シトセバ非友好的ト稱セラルルモ已ムヲ得ザルベシ等述ブ(大使ハ緬甸官憲ハ眞面目ニ禁輸措置ヲ實行シ居リ此ノ點日本側ガ信用セザルコトニ不滿ヲ感ジ居レリト述ベタルニ付局長ヨリ禁輸ガ眞面目ニ實行セラレ居ラザル旨ノ情報

我方ニ多數集マリ居リ右ニ付時々貴方ニ照會スル次第ナリト言ヘルニ大使ハ右ハ何レモ支那側ノ宣傳ニシテ支那ノ言フコトハ信用出來ズト云ヘリ

尙局長ヨリ「オーラル、ステートメント」ハ其儘直チニ電報セラレズトモ兎ニ角以上ノ次第ニ付奥村氏等ノ旅行急速實現方傳ヘラレタシト申入レ置キタリ

## (二) 和平問題ニ關スル件

最後ニ大使ハ緬甸禁輸ニ關スル有田大臣「ク」大使間諒解書キ物ヲ示シ英國側ハ三ヶ月ノ禁輸期間中東亞平和招來ノタメノ努力ガ爲サルベキコトヲ期待スル旨尙日本側ハ之ガタメノ努力ヲナシツアル旨右書キ物中ニ記載アル次第ニテ十月十七日ニ至ラバ右期限モ盡クル次第ナルガ此ノ點如何ナリ居ルヤト質問シタルニヨリ局長ヨリ我方ハ和平實現ヲ終始念頭ニ置キ努力シツアルモノナルガ之ガ詳細ハ自分トシテ説明スル立場ニ在ラズト言ヘルニ大使ハ其ノ詳細ニ付テモ承リタキモノナリ自分ハ本日輕井澤ニ赴キ近ク歸來ノ上大臣又ハ次官ト此ノ點話合ヒタキ希望ナルニ付此ノ點大臣及次官ニ傳達ヲ乞フ旨述べ局長之ヲ諒承セリ

1949

昭和15年9月12日

在ラングーン福井領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

実効ある禁輸措置の実行方要求に対するビル  
マ国防部長官の不得要領な回答振りについて

ラングーン 9月12日後発

本省 9月13日前着

第二六六號

往電第二二五號ニ關シ

十二日奥村書記官「ワイズ」長官ヲ往訪シ往電第二二一號ノ諸問題ニ對スル回答ヲ督促シタル處「ワ」ハ此ノ種問題ハ大部分緬甸政府限リニテ裁量シ難キモノナルヲ以テ本國政府ニ訓令ヲ仰キ置キタルカ未タ何等ノ指示ナキ次第ナリトテ相變ラス不得要領ノ態度ナリシヲ以テ奥村ヨリ所用ノ爲一旦歸朝スルコトトナリタルカ爾後ノ交渉ハ福井領事當然之ニ當ルヘキニ付充分折衝ヲ保タレ度キ旨ヲ述ヘ且支那人ノ排日取締ニ付テモ再ヒ嚴重注意ヲ喚起シタル上辭去セリ



1950

昭和15年9月20日

松岡外務大臣より  
在英国重光大使宛（電報）

日本の仏印に対する要求は援蔣ルート封鎖に  
関する日英協定中の和平努力の精神に反する  
との認識をクレギー大使表明について

付記一 昭和十五年九月十六日付「松岡大臣在京英國

大使會談要領」より抜粋

援蔣ルート封鎖問題に関する會談要旨

二 昭和十五年九月十八日

大橋外務次官・在本邦クレギー英國大使會

談要旨

本省 9月20日後10時30分発

第七五七號

一、十六日「ク」大使本大臣ヲ來訪シ佛印問題ハ佛國及佛印  
ノ窮境ニ乘シ佛印及支那ノミナラス極東ニ利害ヲ有スル  
諸國ニモ政治的軍事的的重要性ヲ有スル問題ヲ押シ付ケン  
トスルヤノ印象ヲ禁シ得ストテ英國政府ノ満足スルカ如  
キ回答ヲ希望スル旨述ヘタリ

（編注）

右ニ對シ本大臣ハ日佛兩國政府間ニ成立セル協定ニ基キ

友好的諒解ノ下ニ一切カ進メラレ居ル次第ニシテ第三國  
カ兎角云フヘキ筋合ニ非スト應酬シ英米及重慶政府ノ各  
代表者カ佛本國政府ノ意ニ反シ佛印官憲ヲ唆シ事態ヲ遷  
延セシメ居ルハ遺憾ナリト反駁シ置ケリ

二、右會見ノ際「ク」大使ハ滇緬路輸送禁絶問題ニ關シ日英

間協定中ニハ日本側カ日支和平ニ努力スヘキ旨明記アリ  
右ニ關シ日本側ノ御考ヘ如何ト訊ネタルニ付本大臣ヨリ  
日本政府トシテ日支和平ニ努力シ居ル旨ヲ答ヘタルニ  
「ク」大使ハ重慶トノ和平ニ英國ノ斡旋ヲ希望セラレサ  
ルヤト問ヒタルニ付其ノ希望ナシト應酬シ置ケリ

三、次テ十八日「クレギー」大使大橋次官ヲ來訪シ前記本  
大臣トノ會見後本國政府ノ見解ニ關シ電報ヲ受ケタリト  
テ日本ノ佛印ニ對スル要求ハ支那ニ對シ新ナル方面ヨリ  
スル攻撃ヲ容易ナラシメントスルモノニテ緬甸ニ關スル  
協定ノ和平ニ關スル努力云々ノ規定ノ精神ニ反スルモノ  
ト認ムル旨述ヘ次官ヨリ右ハ日本カ佛印ニ對スル計畫ヲ  
斷行セハ緬甸「ルート」再回ストノ主旨ナリヤト質問セ  
ル處必スシモ然ラス唯從來ノ話合ノ主旨ニ反スルモノト  
思考シ再考ヲ促スモノナリト述ヘ居タル趣ナリ

（開カ）

編 注 仏印問題に関するクレイギー大使口上書および会談要

旨については本書第189文書および同付記参照。

(付記一)

香港及緬甸問題

「クレイギー」大使ハ本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ香港緬甸輸送路禁絶問題ニ關シ本件ニ關スル協定ハ英國内ニ於テモ種々議論アリタルモ難キヲ忍ビテ受諾シタルモノナリ右協定中ニハ日本側ハ和平恢復ニ付努力スヘキ旨明記アリ日本側トシテハ右和平ニ關シ望ヲ絶シタル次第ナリヤト質問セルニ付大臣ヨリ日本政府トシテハ極力和平實現ニ努力シ居ル次第ナリ現ニ南京ニ於テ汪政府トノ間ニ條約交渉ヲナシ居ルモ右目的ノ爲ナリ

一方蔣政府ニ對シテモ條件等ハ申上ケ兼ヌルモ希望ヲ有シ居ルハ事實ナリ日支和平ノ日本國民ノ熱望スルトコロナル以上政府力和平ニ努力シ居ルハ勿論ナリト述ヘタルニ「クレイギー」ハ汪政府トノ交渉ハ重慶トノ和平ヲ絶ツコトニナラサルヤト問ヒタルニ付大臣ヨリ世間テハ斯ル説ヲナス

モノアルモ自分ハ長年支那ニ在リテ汪精衛トモ懇意ノ仲ナリ又蔣介石トモ曾テ南昌ニ於テ六時間モ懇談シタルコトアル位ノ仲ナリ自分ハ可能性アルモノト考ヘ居レリト述ヘタリ

「クレイギー」ハ更ニ蔣トノ和平ニ英國ノ斡旋ヲ希望セラレサルヤト問ヒタルニ付大臣ハ英國ノ斡旋ハ全ク其ノ必要ナシ自分トシテハ好ク知ツテ居ル仲ナリ自分力無理ヲ云フ人間ニ非ス驅引ヲ云フ男ニ非サルコトハ先方モ承知シ居レリ今回外務大臣ニナリタル自分トシテ more than some hope アリト思考シ居ル次第ナリト答ヘタルニ「クレイギー」大使ハ緬甸問題ニ對シテハ英國側ノ滿期後ハ自由ニ決定シ得ルモノトナリ居ル處右ニ關シ滿期後如何ニナスヘキヤ御考ヘアリヤト述ヘタルニ付大臣ヨリ右ハ英帝國ノ御考ニ依リ勝手ニ決定セラルヘキ問題ナルカ右ニ付テハ又其ノ時ニ申シ述フルコトモアルヘシト答ヘ置ケリ

(付記二)

昭和十五年九月十八日次官英大使會談要旨

「九月十八日「クレイギー」大使次官ヲ來訪シ「佛印ニ關

スル日佛交渉ニ關シ去ル十六日大臣ト會談シタル後更ニ本國政府ノ本件ニ關スル見解ニ付電報ヲ受ケタリ英國政府ノ情報ニシテ誤ナクハ日本ノ目的ハ支那軍ニ對シ新ナル方面ヨリ攻撃ヲ加フルヲ容易ナラシメントスルモノナルカ緬甸ニ關スル協定ハ和平ニ關スル特別ノ努力爲サルヘシトノ了解ノ下ニ成立セルモノニシテ支那軍ニ對スル新攻撃ハ前記協定ノ精神ニ反スルモノト認メラル」トノ趣旨ヲ述ヘテ書物ヲ手交シタルニ付次官ヨリ日本カ佛印ニ對スル計畫ヲ斷行セハ緬甸「ルート」ヲ再開スト云フ趣旨ナリヤト質問セル處必スシモ然ラス唯從來ノ話合ノ趣旨ニ反スルモノト思考シ再考ヲ促スモノナリト述ヘタリ

三、尙左ノ通り應答アリタリ

次官 元來佛印トカ支那事變等ノ責任ハ英米ニアリ、英米ハ滿洲ノ獨立ヲ妨ケ又ハ支那ヲ煽動スル爲今日ノ如キ結果トナリタリ

英大使 支那ヲ援ケタルコト無シ唯權益ヲ擁護セルノミ次官 權益中心ニ眼カ眩ミ大局ヲ忘ルルカ故ニ如此コトトナル

英國カ蔣中心主義ヲトルコトカ根本的ニ誤リナリ英大使 ソレハ日本カ獨逸中心主義ヲトルト同様ナリ日本ニハ排英氣勢事毎ニ顯著ナリ改善ヲ希望ス

日本ハ間違ツタ道ニ這入ツテハナラヌ二週間以内ニハ事態判明スヘシ(英國カ獨逸ニ勝ツ)

獨逸ハ支那ニ關シ別紙ノ如キ日本ニ不利ナル考ヲ持ス

~~~~~

1951

昭和15年9月21日

在香港岡崎總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

香港政庁は援蔣軍需物資禁輸措置をビルマ同様に期間三か月と認識している旨報告

香港 9月21日後発  
本省 9月21日夜着

第五〇二號

當地禁輸問題ニハ期限ヲ附シ居ラサルモノト了解シ居リタル處政廳側ハ禁輸ハ武器彈藥ヲ除キ緬甸同様三箇月後ハ一應解除セラルルモノト考ヘ居ルモノ多ク又期日ニ付テハ正確ナル算定ヲ爲シ居ラサルモ「ハミルトン」ハ十月十八日ヲ以テ終了ト了解スル旨述ヘタルコトアリ右ハ何レニスル

モ若シ緬甸禁輸カ更改セラレサル場合ハ香港ノミ禁輸ヲ繼續スルモ意味ヲ爲サス又緬甸カ更改サルレハ自然香港モ禁輸繼續ノコトトナルモノト存ス本件時機モ追々迫リ居ルニ付御交渉中ノコトト考フル處本官心得迄其ノ後ノ模様御回示アリタシ

1952

昭和15年9月23日  
在ラングーン福井領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

国境までの往復ガソリン量を許可した非禁絶品輸送トラックに対して昆明までの往復分も追加許可する旨のビルマ政庁通報について

ラングーン 9月23日後発  
本省 9月24日夜着

第二八一號

「セイモア」ヨリ二十一日附公文ヲ以テ七月二十日ヨリ八月九日迄ノ間ニ非禁絶品ヲ積載シテ「ラシオ」ヲ出發セル貨物自動車一七一五臺アル處右自動車ニ對シテハ行政的措置ヲ決定スル必要上「ラシオ」「ワンテン」(國境)間ノ往復ニ要スル「ペトルル」ノミヲ許容セルカ今般日英協定第

二條(A)ニ依リ稅關長ニ對シ一臺ニ付百四十「ガロン」ノ定量(此ノ定量ハ貨物ヲ滿載シテ昆明ニ到達シタル上緬支國境ニ歸還スルニ要スル量ナリ)ヲ以テ右一七一五臺分ノ「ガソリン」ノ陸路支那向輸出ヲ許可スルノ權能ヲ與フルコトニ決定セル旨通報越セリ

1953

昭和15年9月24日  
在ラングーン福井領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

昆明までの往復ガソリン量を追加許可するとのビルマ政庁通報に対し取消し方要求について

ラングーン 9月24日後発  
本省 9月25日前着

第二八二號

本官<sup>(1)</sup>二十三日「セイモア」ヲ往訪シ

(一)支那側ニ入ル「トラック」ハ支那側ヨリ徵用セラルル惧ナキニアラサルニ付八月九日迄ニ「ラシオ」ヲ出發セル一七一五臺中緬甸ニ着セル臺數ヲ承知致度シ又同月十日以後支那ニ入リタル臺數及緬甸ニ歸還セル臺數ニ付急報ヲ得タキ旨要求八月九日迄ニ「ラシオ」ヲ出發セル自動

車ニ對スル分トシ今日ニ至ル約二十四萬「ガロン」ノ輸出ヲ許可スルコトハ我方ニ於テハ之ヲ非禁絶品ノ輸送トハ關係ナキ新ナル輸出ト認メサルヲ得ス又緬甸當局カスル莫大ナル量ノ輸出ヲ許可セハ日英協定實施ニ關スル緬甸當局ノ誠意ヲ疑ハサルヲ得サルニ付

(2) 右輸出許可ノ決定ハ之ヲ取消サレ度キ旨要求セル處

〔七〕ハ日英協定ノ當初非禁絶品輸送用「トラック」取扱ヒ手續未決定ナリシ爲右「トラック」ニ對シ國境ヨリ奥ニ入ルコトヲ禁止シ其ノ後日英協定ノ條項ニ依リ八月十日ヨリ右禁止ヲ解除(往電第一九一號御參照)シタルカ支那側ヨリ右解除前ニ「ラシオ」ヲ出發セル「トラック」ハ當然日英協定ニ依リ積載貨物ノ仕向地迄ノ往復ニ要スル「ガソリン」ヲ許容セラルル權利アルモノトシテ右「ガソリン」ノ輸出許可方陳情越シ又緬甸側トシテモ當然許容スヘキモノヲ當時許容セサリシモノナルヲ以テ今般

右「ガソリン」ノ輸出ヲ許可スルモ日英協定ニ抵觸スルモノニ非スト力説シ本官ヨリ種々ナル理由ヲ擧ケテ説得ニ努メ

(三) 非禁絶品輸送ノ「トラック」用「ガソリン」ノ許容ニ付

テハ我方ハ國境ト國境最寄ノ「ガソリンステーション」間ノ往復ニ要スル「ガソリン」ト解釋シ居ルニ付貨物仕向地迄ノ往復ニ要スル「ガソリン」ノ許容ハ差止メ又緬甸側「トラック」ハ國境ニテ支那ノ「トラック」ト積換ユルコトトセラレタク兎モ角東京ニ於ケル本件交渉力妥結ヲ見ル迄ハ緬甸カ英國ノ一方的解釋ニヨリ措置ヲ執ルコトヲ差控ヘラレタク然ラサレハ若シ英國政府カ日本ノ解釋ニ

同意セル場合緬甸當局ニ於テハ發給セル許可等ヲ取消スノ要アル處右許可ニ依リ發生セル貨物輸送及「ガソリン」消費等ノ事實取消ノ方法ナカルヘク不都合ナル事態ヲ生スヘキコトヲ指摘シテ説得ニ努メ「セ」ハ右(一)(二)及(三)ノ本官申入ヲ總督ニ報告スヘシト述ヘタリ

(四) 本官ヨリ空車ノ「トラック」カ日々蘭貢ヨリ「ラシオ」方面ニ輸送セラレツツアルヲ目撃シ居ルカ右ハ協定遵守ニ關スル緬甸當局ノ誠意ニ付懸念ヲ生スル原因トナルニ付右輸送ヲ禁止セラレタキ旨述ヘタル處「セ」ハ協定ハ禁絶品ノ緬甸内輸送ヲ禁止シ居ラス協定ニ規定ナキ事項

ハ當地ニ於テハ話合ヲ爲スヲ得ス日英兩政府間ノ交渉ニ待ツノ外ナシトテ話合ヲ爲サントセス

1954

昭和15年9月27日  
在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

米中借款の担保品たるタングステン輸出には  
ビルマルト再開が不可欠であり重慶側が英  
国に対し再開を要請したとの報道報告

上海 9月27日後発  
本省 9月27日夜着

第二〇七五號

二十七日當地各漢字紙ハ米國ノ對日屑鐵禁輸ト對支借款二千五百萬弗許與聲明ニ關スル華府電ヲ大々的ニ報シ居レリ二十六日重慶發「ユーピー」電ハ同地官邊筋ノ意嚮トシテ同借款成立發表ハ日本軍ノ佛印進駐ニ對スル米國ノ不滿ヲ表示スルト共ニ米國ノ對支援助ヲ表現セルモノナルカ其ノ擔保品タル「タングステン」鑛輸送ニハ滇緬「ルート」ノ再開ヲ絶對必要トスル旨報セリ

二十六日重慶發中央社電ハ國民參政會副議長張伯苓以下參

政員數十名カ個人名義ニテ二十五日英國兩議員ニ對シ英國ノ極東權益ニ對スル重要性ヲ指摘シ滇緬「ルート」ノ無條件開放決定方電請セル旨報セリ二十六日重慶「ルーター」電ハ「カー」大使來渝以來滇緬「ルート」再開問題力重慶政府トノ重要交渉問題トナリ居ル旨報シ居レリ  
北大、天津、南大、漢口ニ轉電セリ  
香港ニ暗送セリ

1955

昭和15年9月27日  
在香港岡崎総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

ビルマルト再開に重慶政權が躍起となつて  
いるとの情報等報告

香港 9月27日後発  
本省 9月28日前着

第五一八號

KC情報

一、重慶ハ滇緬公路ノ開放ハ對英唯一ノ問題ナリトシ十五日英ニ「メモランダム」ヲ送付封鎖延長ニ對シテハ強硬策ヲ執ルヘシト警告セル趣ナルカ二十一日「カー」ヨリ王

龍惠ニ對シ期限經過後ハ開放ノ意アル旨ヲ仄カシタル由ニテ開放ノ見込アリト期待シ居レリ尙チンジンユーノ連絡者ニ對スル内話ニ依レハ米ノ浦潮經由重慶向ケ貨物ハ第一回分ノ着荷アリタルノミニテ以後蘇聯邦ニテ運輸ヲ澁リ其ノ態度明確ヲ缺ケルト西北公路自體ノ運輸力貧弱ノ爲重慶側ハ頗ル苦悶シ滇緬輸送路ノ再開ニ躍起トナリ居ル趣ナリ

二、我軍ノ佛印進駐ハ雲南攻撃ヨリモ寧ロ南進基地ノ確得ト見做サレ二十三日龍雲ノ召集セル前線將領會議ハ雲南ノ補強策ヲ取り又二十三日ノ國防最高委員會モ國際情勢ヲ見極メル迄差當リ佛印ノ要求アルカ日本軍ノ雲南進出ノ場合ヲ除キ積極的侵入ヲ差控フルコトトシ前線指揮官ノ派遣スヘキ偵察隊モ國境外ニ駐留セシムヘカラストノ方針ヲ決定セリ尙重慶側ハ當分何應欽ヲ昆明ニ止メ白ト共ニ龍雲ヲ援助セシメ佛印ニ對シテハ一面抗議シ一面軍事合作實現ニ最後的な努力ヲ繼續中ナリ龍ハ行懸ヲ捨テ目下軍事ニ専念シ居レリ

南京(大)、上海、廣東へ轉電アリタシ



1956

昭和15年9月28日 松岡外務大臣より  
在香港岡崎総領事宛(電報)

香港經由援蔣軍需物資禁輸措置には期限は設定されておらず香港政庁の誤解訂正方訓令

本省 9月28日後9時30分迄

第二五八號

貴電第五〇二號ニ關シ

香港ニ付テハ禁輸ニ關シ期限ヲ附シ居ラズ緬甸「ルート」ノ推移如何ニ不拘依然繼續スルモノナリ政廳側ニ於テ此點ニ關シ誤解アルニ於テハ嚴重訂正シ置カレタシ尙緬甸「ルート」ノ繼續問題ニ付テハ別ニ電報ス

貴電要旨ト共ニ英、南大、上海、北京、廣東へ轉電セリ



1957 昭和15年10月1日 在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

米國國務長官の發言振りからビルマルト再開を米國が英國に働きかけていると米國紙が報じている旨報告

付記 昭和十五年十月二日起草、松岡外務大臣より

在英國重光大使宛電報案

ビルマルート封鎖繼續を英國政府に説示方訓  
令

特情華府第五四號

ワシントン 10月1日前発  
本省 10月1日後着

三十日午前「ロシアン」英大使ト會談ヲ遂ケタ「ハル」國務長官ハ會談終了後ノ記者團トノ定例會見ニ於テ會談内容ニ關スル記者團ノ質問ニ對シ會談中極東問題カ話題ニ上ツタカ否カ一切言明ヲ避ケ極メテ曖昧ニ次ノ如ク答ヘタ

「ロシアン」英大使トノ今日ノ會談テハ英米兩國内ノ經濟、商業、政治各方面ニ亘ル何時モノ様ナ小サイ諸問題ヲ話シ合ツタ

一部消息通ハ滇緬公路再開問題モ當然議題ニ上ツタモノトシテ居ルカ「ハル」長官ハ「英國ハ米國ト協議シタ上滇緬公路再開ヲ用意シテ居ルト報セラレルカ如何」トノ記者團カラノ質問ニ對シ

「既ニ本國ハ最初カラ同公路閉鎖ニ反對シテ來タノタト前ニ言ツテ置イタ以上余ハ何モ附ケ加ヘルコトハ出來ナイ」

ト答ヘ「コノ點ニ關シテハ米國ノ立場ハ依然變更ヲ見テ居ナイ」ト更メテ附ケ加ヘタコノ「ハル」長官ノ言明ハ米國カ英國ヲシテ滇緬公路ヲ再開セシメルヘク外交的ニ働キカケテ居ルコトヲ事實上確認シタモノテアルト解スルモノカ多イ尙記者團ト「ハル」長官トノ問ニ次ノ如キ質疑應答カ行ハレタ

問「上海テ米國兵ニ暴行カ加ヘラレタトノ情報カアルカ如何」

答「上海テモ佛印テモコノ種ノ事態カ發生シテ居ル様ナ何等ノ公電モ最近ハ受取ツテ居ナイ」

問「米艦隊カ近ク親善ノ爲濠洲ヲ訪問スル計畫カアルト云ハレルカ」

答「ハツキリシタ計畫カ進メラレテ居ルカドウカ余ハ聞イテ居ナイ」

(付記)

緬甸「ルート」禁輸繼續ハ事變處理ヲ重點トスル我國策上極メテ重視スルモノナル處英國側トシテハ未タ確定的ニ再開ヲ決意シタルニハ非サルモ米國ノ要望モアリ大體再開ニ



傾キ居ル模様ナリ(先般來禁輸ノ條件タル和平問題ハ如何ニナリ居ルヤトカ佛印問題ハ右諒解ニ反ストカ申出テ居ルハ再開ノ場合ヲ考慮セル準備工作ト觀測ス)尤モ英國トシテハ米國ノ大西洋ニ於ケル對英援助能力ヲ減少セシメサラシカ爲或程度迄米國ノ極東問題ニ深入リスルヲ止メントスル立場ニアリトモ考ヘラル

然ルニ我方トシテハ英國カ米國ヲ介入セシメス專ラ東亞ノ新事態ノ認識ニ合スル安定ヲ希望スル政策(斯ル政策ノ證左ハ差當リ緬甸禁輸問題ナリ)ヲ採ルニ於テハ三國條約ヲ英國ニ對シテハ進テ發動セントスルモノニ非ス然レトモ同條約ニモ明ナルカ如ク支那事變ノ處理ニ第三國カ不當ニ干渉スル場合ハ我方トシテ之ヲ排除スルニ斷乎タル決心ヲ有スルヲ以テ英米ノ緬甸問題處理ノ如何ニ依リテハ日英及日米關係ニ極メテ不幸ナル事態ヲ生セサルヲ保セス

緬甸問題ニ關シテハ期限前本大臣ヨリ正式ニ要求ヲ爲ス答ナルモ貴大使ハ敍上ノ次第御含ノ上左記諸點特ニ再開ノ影響ノ重大ナルコトヲ指摘シ英國カ大局の見地ヨリ本件禁輸ノ繼續ニ同意スル様豫メ説示シ置カレ度

(一)抑々期限ヲ切リタルコトカ本件ノ效果ヲナカラシメ居ル

コト(往電第五九四號參照)

(二)今日迄英國側ノ禁輸ノ遣リ方カ極メテ不徹底ナリシコト(支那側ハ當初ヨリ期限滿了ノ際ヲ見越シ盛ニ武器彈藥ヲ緬甸ニ輸送シ國境地方ニ待機セシメツツアリ從テ事實上輸送困難ナル雨期三ヶ月間ノ輸送ヲ禁絶シタルノミニテハ和平促進ノ效果ナカリシコト)

(三)日支和平ハ我方トシテ自主的ニ努力スル旨ヲ言明セルモノニシテ本件ノ對價ニハ非サルコト

(四)一旦閉鎖セル緬甸「ルート」ヲ再開スル如キコトアラバ英國ノ希望スル極東ノ和平ヲ夫レタケ遲ラスコトトナルノミナラス前記ノ如キ日英關係ニ極メテ憂慮スベキ影響ヲ與フベキコト

北京、上海、南大、香港、米へ轉電セリ

編 注 本電報案は廃案となり發電されなかった。

~~~~~

1958

昭和15年10月1日 在香港岡崎総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

香港經由援蔣軍需物資禁輸措置には期限は設定

されていない旨を香港政庁へ注意喚起について

香港 10月1日後発

本省 10月1日夜着

第五二四號

貴電第二五八號ニ關シ(緬甸「ルート」交渉状況竝ニ香港禁絶期間ニ關スル件)

九月二十三日民政長官ニ對シ香港禁輻ニハ期限ナキ次第ヲ述ヘタル處長官ハ緬甸同様三ヶ月ヲ以テ一應終ルモノト漠然ト思ヒ居タルモ貴說ノ如ク明確ナル期限ヲ限リタルコトハナキヤモ知レス何レニスルモ更ニ研究シタル上話合ヲ爲スコトト致度シト答ヘタルカ冒頭貴電ノ次第モアリ一日更ニ長官ニ會見シ日本政府ハ香港ニハ期限ナク從テ日英政府間ニ之カ取止メニ付合意成立スルニアラサレハ何時迄モ繼續スルモノト了解スル旨申入タリ

右ニ對シ長官ハ先般來研究ノ結果本件ハ元來日英政府間ニ取上ケラレタル問題ニモアリ倫敦ニ請訓セスンハ意見ヲ表示シ得ストノコトトナリタル處今更メテ御申入アリタルニ付本日ニモ發電スルコトトスヘシト答ヘタリ

御見込ニ依リ適宜轉電アリタシ

英へ轉電セリ

1959

昭和15年10月8日

在英国重光大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

英國政府は三国同盟への対応を審議中であり  
ビルマルートの処置を東京で急ぎ折衝すべき  
旨英國外務次官通報について

ロンドン 10月8日後発

本省 10月10日前着

第一六七一號

十月七日「バ」次官トノ會談要領左ノ通り

「(先方ヨリ)今回ノ日獨伊「バクト」ハ日英關係ニ付テ凡ユル努力ヲ爲シタリト信スル(尤モ貴下ハ十年來ノ英國ノ政策ノ結果ナリト言ハルルモ)「ハ」外相及自分等ノ過大ナル打撃ナルモ英國政府トシテハ冷靜ニ判斷シ度ヲ失フコトハナシ而シスル英國ニ關スル重大ナル出來事カ英國側ヨリ反響ナシトハ期待セラレサルヘク目下首相ノ手許ニテ審議中ナルニ付決裁ノ結果ハ直ニ御參考迄御通知致スヘシトテ今日特ニ豫報スル次第ナルコトヲ告ケ緬

甸道路ノ問題ノ處分ヲ急クノ要アルヲ述ヘ多分「クレীগー」ハ一兩日中ニ東京ニ於テ折衝スヘシ英國側ノ執ラントスル措置ハ何レモ防禦的ニシテ挑發的性質ヲ有セス日獨伊「パクト」ノ施策カ日本側ニ於テ進ンテ事態ヲ惡化スルノ意アルニアラサレハ英國側ヨリ惡化スル考ナキ趣旨ヲ述ヘタリ

三、<sup>(2)</sup>(當方ヨリ)日本側ノ意嚮ハ「パクト」成立ト同時ニ東京ニ於テ發表セラレタル報告ヲ初メ首相ノ聲明及外相ノ演說ニ依リ全部盡シ居リ右ヲ再閲アリタク端の二言ヘハ日本ノ生存要求タル其ノ東亞ニ於ケル地位ニ對スル英米側ノ了解ヲ十年間モ待チタルカ却テ反對ニ脅威的態度ヲ以テ酬イラレタル結果自然ニ生シタルモノニシテ純然タル防禦的ノモノナリ且何國ニ對シテモ脅威ヲ與フル目的ヲ有セス要スルニ無益ニ事態ヲ此ノ上惡化セシムルコトハ双方ノ欲セサル所ナルヘキニ依リ本使ハ此ノ際特ニ次ノ二點ニ關シ注意ヲ喚起シタシ

第一點ハ日英ノ關係ハ極メテ冷靜ニ現實的ニ處理スルコトニシテ餘リニ「センセーシヨナル」ナ取扱方ハ考物ト思フ

從來緬甸道路ノ問題ニ付テモ支那援助ニ關シ倫敦ハ新東亞ニ於テ餘リ不必要ニ「センセーシヨナル」ニ取扱ヒ過キタリシヤヲ疑フ

次ノ點ハ

英國ハ從樣日本ノ敵タル支那(重慶)側ヲ援助スル建前ヲ取り今同日本カ英國ノ敵タル獨伊ニ對シ稍類似ノ地位トナリタリ英國側カ日本ト獨伊トノ關係ニ付テ心配セラルルコトハ御尤モナルカ更ニ東方ニ於ケル複雑機微ナル情勢竝ニ重慶側ニ對スル關係ニ付テハ英國側ニ於テ特別ノ注意ヲ拂ハレ形勢ノ惡化ヲ避クルノ必要アルヘシ

<sup>(3)</sup>尙米國ノ態度ハ如何ト質問シタルニ「英國ハ太平洋ニ於テ日米ノ間ニ事ヲ構フコトヲ決シテ欲スルモノニアラス」

ト言ヒ更ニ

米國ノ歐洲戰介入如何ノ問題ニ付テハ理想派ハ米國ノ參戰ヲ希望シ居ルモノニ對シテ寧口實質的援助ノ方ヲ重大視スルモノナリ

ト説明セリ依テ

(當方ヨリ)

若シ右實質派ノ意見通リトスレハ米國ノ戰爭參加ハナク  
又日本ノ地位ニモ從來ト何等變化ヲ來ササル理ナレハ此  
ノ兩國關係ノ惡化ヲ招來セサル爲各種懸案其ノ他ノ實際  
問題ニ注意ヲ加フルノ要アルヘシ

ト述ヘ置キタリ

三、尙本會談中戰況ヨリ一般ノ形勢日獨伊ノ「パクト」成立  
及英帝國ノ内情ニ觸レタル際先方ヨリ日本側ニ於テ英帝  
國ノ實力過小ニ見積ラサル様注意ヲ爲シタルニ付

本使ハ日本側ニ於テハ左様ノコトハナシ今回三國「パク  
ト」ノ成立モ英國ノ實力ヲ輕視シタル結果ニアラスシテ  
(畢カ)  
竟其ノ地位ノ自覺及實力ノ自信ヨリ來ルモノニシテ特  
ニ東方「オリエント」ニ對スル日本ノ責任ヲ深ク感シタ  
ル結果ナル旨答ヘ置ケリ

米ヘ轉電セリ

米ヨリ獨伊ヘ轉電アリタシ

~~~~~